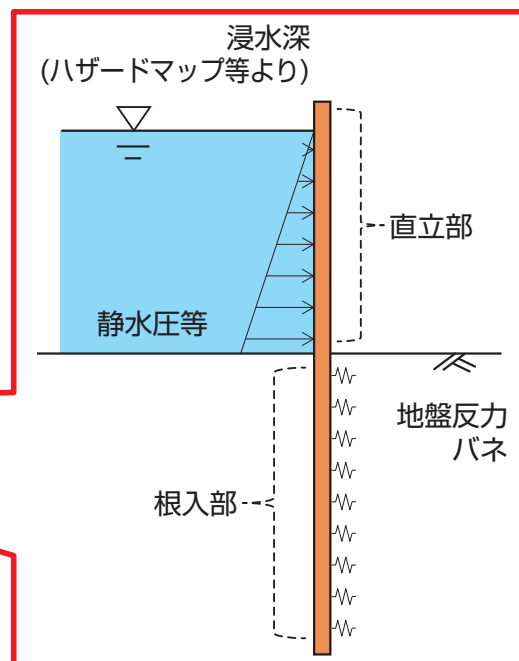
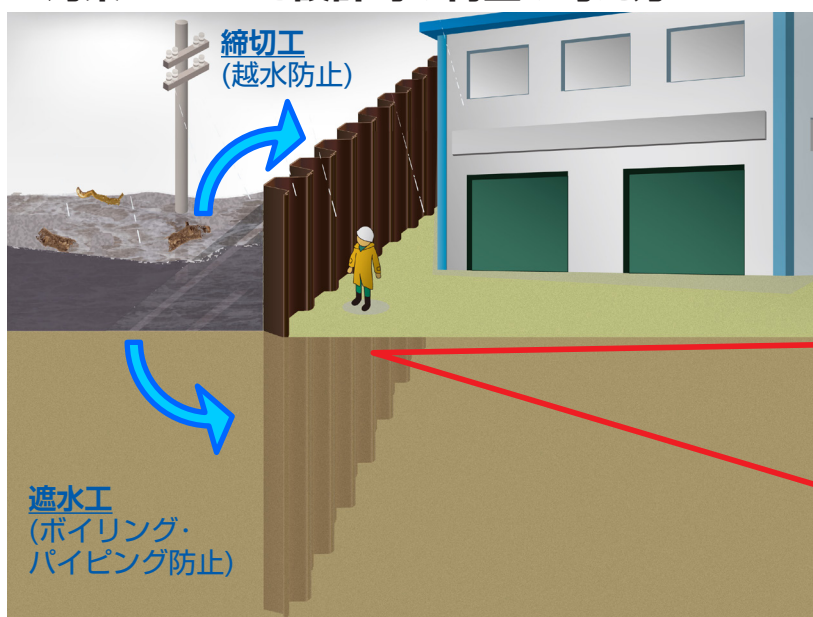


浸水対策用鋼製遮水壁

浸水対策用鋼製遮水壁は、自立式の鋼製壁体を活用した本設構造で、重要施設外周を囲むように設置することで、洪水時や津波時における内部への浸水の低減・抑制効果が期待されます。地盤に鋼製壁体を打ち込むことで、直立部では洪水等による浸水を、根入部で地盤内の浸透水を同時に遮断することができる、極めて省スペースな対策工です。

■対策イメージと設計時の荷重の考え方



- ① 仮締切等で実績のある構造の、本設用鋼矢板による本設遮水壁への展開
- ② ハット形鋼矢板などの、継手効率を考慮不要な鋼材の採用による構造信頼性の確保
- ③ 根入を伴う自立式構造によりボーリング・パイピング等の浸透対策としても機能
- ④ 自立式構造による極めて省スペースな対策で、用地の最大限活用・施工制約解消

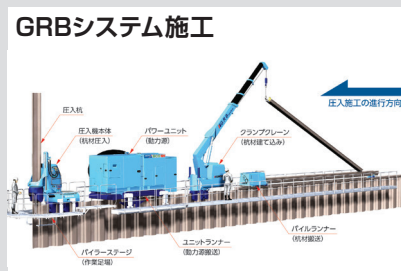
■材料

継手効率を考慮不要な鋼材が推奨されます。
(ハット形鋼矢板、鋼管矢板、コンビジャイロ工法)
※継手効率を考慮する必要がある鋼矢板の場合、継手の嵌合状況によって壁体の構造性能が異なる可能性があります。



■施工法

圧入工法 (複合式圧入機)
※低振動・低騒音、狭隘施工、硬質地盤に対応



■概算工費（試算の一例）

適用指針：鋼矢板道路擁壁設計マニュアル
地盤：N値15（一層系）、外力：静水圧のみ

型式	矢板長	浸水深	概算工費
NS-SP-10H	8.5m	2.5m	13.2万円/m
NS-SP-25H	10.5m	3.2m	20.9万円/m
NS-SP-45H	12.0m	3.7m	30.4万円/m
NS-SP-50H	12.5m	3.9m	37.6万円/m
鋼管矢板φ600	14.5m	4.5m	82.6万円/m
コンビジャロ工法φ800	16.0m	4.5m	68.4万円/m

※概算工費は鋼矢板の直工費（材料・施工）のみ考慮し、水門・ゲートは含まない。

※鋼管は比較的長尺のため、杭先端の硬質地盤への干渉を想定。

■修景兼用嵌合継手止水処理例



残存型樁工法

■施工実績

①弘前航空電子株式会社様

竣工：2020年10月

施工：鹿島建設株式会社

施工延長：約1.2km（止水門：4基）

②佐賀県某工場

竣工：2020年7月

施工：株式会社上滝建設

施工延長：約600m（ゲート：6基）



＜ご注意とお願い＞ 本資料に記載された技術情報は、製品の代表的な特性や性能を説明するものであり、「規格」の規定事項として明記したもの以外は、保証を意味するものではありません。本資料に記載されている情報の誤った使用または不適切な使用等によって生じた損害につきましては責任を負いかねますので、ご了承ください。また、これらの情報は、今後予告なしに変更される場合がありますので、最新の情報については、担当部署にお問い合わせください。本資料に記載された内容の無断転載や複写はご遠慮ください。本資料に記載された製品または役務の名称は、当社および当社の関連会社の商標または登録商標、或いは、当社および当社の関連会社が使用を許諾された第三者の商標または登録商標です。その他の製品または役務の名称は、それぞれ保有者の商標または登録商標です。



NIPPON STEEL

日本製鉄株式会社

〒100-8071 東京都千代田区丸の内2-6-1

TEL：03-6867-4111(代)

日本製鉄グループの「国土強靱化」ソリューション
商品・工法リーフレット
K204_04_202109
©2021 NIPPON STEEL CORPORATION
無断複写転載禁止